

日本ソムリエ協会

福島支部 来月発足

県産ワイン 普及目指す

日本ソムリエ協会の福島支部が来年一月に設立される見通しになった。本県は宮城、山形両県と構成する南東北支部に所属していたが、県内のソムリエ資格試験合格者が相次ぎ、協会会員の増加率が高いため支部設立が認可された。県内各地でワイン醸造の動きが広がっており、県産ワインの消費拡大に向けた事業を展開していく。

県内のソムリエ試験合格者増加の実績と、会員が約百人になった点が協会に評価された。支部設立で福島、宮城、山形三県で持ち



回りで開いてきたセミナーや講習会を県内で集中的に開催できるようになる。ワイン関連の飲食店関係者だけでなく、幅広い職業や年齢層に普及させるため夜間や祝日のセミナー開催を検討する。支部長に南東北支部副支部長の伊藤勝仁（かつひと）さん（福



ワイン文化の普及に向けて力を合わせる（左から）伊藤、追分、岩田、大垣、泉田の各氏

島市、ワイン&チーズしめる土壌をつくって「マリアージュ」が就任「いきなり」と語る。伊藤さんは「福島副支部長に追分美和島で気軽にワインを楽

会計副支部長に大垣涼子さん（須賀川市、フエラゴースト）が就く。先日、泉田智行南東北支部長（仙台）、二〇一七（平成二十九）年最優秀ソムリエの岩田渉さん（京都）と支部運営を協議した。県産日本酒の魅力を発信する「ふくしまの酒マイスター」を務めている日本ソムリエ協会の田崎真也会長は「福島の本酒は全国に有名だが、福島でワイン文化も広まってほしい」と期待を寄せている。東北では福島支部と同様に宮城、山形が支部になり、北東北支部の青森が支部、岩手と秋田が合同支部になる。

ワイン醸造の取り組み広がる 県内ではブドウ栽培やワイン醸造に取り組む地域や企業、団体が増えている。会津美里町の「新鶴シャルドネ」は有名。二本松市の「ふくしま農家の夢ワイン」、郡山市の「ふくしま産ワイン」、いわき市の「いわきワイナリー」などで作ら

れている。福島支部は県産ワインの消費拡大に向けたイベント企画や、ワインに合う県産食材を使ったメニューの開発などに力を入れる方針。今年7人合格ソムリエ資格試験 県内でソムリエ合格者が増えているのは、福島市の業務用酒類卸の追分が二年前から開

催している講座が大きく貢献している。南東北支部によると、県内のソムリエ合格者は数年に一人だったのが、昨年は講座受講者の九人、今年七人がソムリエ（ワインエキスパートを含む）に合格した。